

上山カラーの紫色に
しました！

令和7年度 上山小学校だより

スマイル上山



第1号 令和7年4月8日（火） 校長 古野 祐一

よろしくお願いします！

保護者の皆様、この度、上山小学校に赴任してまいりました校長の「古野祐一（この ゆういち） 58歳！」です。4年ぶりに諫早の地に戻ってこられたことを幸せに思います。

少し自己紹介をさせていただきます。保護者の皆様、地域の方々と、どこかで関りがあっていたら嬉しいです。



- ①平成2年度、**諫早小**を皮切りに教師生活がスタート。市役所前の旧校舎で子供たちと3年間過ごし、サッカー部の指導にも燃えていました。
- ②平成5年度から**西諫早小**で6年間を過ごし、子供たちと夜間歩行や校内キャンプなどに挑戦したことが印象深いです。
- ③平成11年度からは、自分の出身校である**北諫早小**に赴任し、幼い頃の思い出と重ねながら新たな発見が多い3年間でした。
- ④平成14年度から8年間は**附属小**で勤務。6年間は教諭として、2年間は教頭として勤めました。
- ⑤平成22年度からインドネシアの**ジャカルタ日本人学校**に教頭として3年間出向きました。灼熱の太陽を浴びつつ、1100人規模の小中一貫校で過ごしなが、発展途上国の勢いを肌で感じてきました。
- ⑥帰国後は、**雲仙市立南串第一小学校**で教頭として2年間勤め、地元を愛する地域の方々の協力パワーで子供たちを共に育むことを学びました。
- ⑦平成27年度から4年間、**長崎県教育センター**で指導主事として教職員研修に携わり、人の子の師たるには学び続ける者こそ資格ありと、改めて教えられた4年間でした。
- ⑧平成31年度（令和元年度）、美しい山と川に囲まれ、多良山系を遥かに望む**高来西小**で校長として2年間勤めました。
- ⑨令和3年度から、再び**附属小**に戻り校長として4年間勤めました。
- ⑩令和7年度から、いよいよ**上山小学校**に赴任となります。

やっぱり最高！

前任の有谷校長先生から引き継ぎを受けた時、「上山小の子供たちは、良かとさねー。保護者も良か人ばかりよ。そしてまた、地域の皆さんが最高さー。」と、何度も聞かせていただいた上山小で働けることが、嬉しくてたまりません。子供たちと出会って、「間違いなく最高に良かね〜」と実感したところです。皆さま、これからどうぞよろしくお願いいたします！

裏面に続きます！

「スマイル上山」を創ります！

上山小学校では、昨年度から「スマイル上山」という呼称を掲げ、素敵な学校づくりを進められています。私もその志を受け継ぎ、上山小に関わる全ての人々が幸せになる学校づくりに邁進します。

学校づくりの目標として、子供の育ちを教師と保護者・地域の皆様が三位一体となって支えていく**「スマイル上山を創る！」**と設定しました。

「これがスマイル上山だ！」と感じたり発見したりする目の付け所は、一人一人違うものです。様々に輝くスマイル上山を子供主体で創り、親と教師と地域が力を合わせてサポートしていく学校づくりを主眼としていきます。

「一歩前へ、何度も挑戦！」する子供！

スマイル上山づくりの過程で、こんな子供たちに育ってほしいと描いた姿が**「一歩前へ、何度も挑戦！」する子供**です。一歩前へ踏み出す勇気と、何度でも挑戦する意欲溢れる姿を、この学校だよりで伝えていきます！



「自律を育む教育」が上山小の心柱！

「一歩前へ、何度も挑戦」する子供に育つために、「自律を育む教育」を中心に据えて、授業づくりや暮らしづくりに取り組んでまいります。そのために絶対に欠かせない三つの大切な願いがあります。それは、

- ① **「『たいの心』が溢れる学校**」でありたい。
 - ・子供の「～したい」という好奇心を6年間で増幅させます。
- ② **「思わずこぼれる笑顔が溢れる学校**」でありたい。
 - ・子供の挑戦による大小様々な達成感という手応えを大切にします。
- ③ **「お互い様、お陰様の心が溢れる学校**」でありたい、ということ。
 - ・互いに貢献し合う関係、そこから生まれる感謝の念を大切にします。

「地域と共にある学校」を目指します！

スマイル上山を創るには、地域の方々との**共創が不可欠**です。なぜなら、自分が生まれ育った地域に愛着を持てるということは、人生の根となる部分を強化するからです。いつでも帰れる場所があると、安心してチャレンジできるからです。子供たちが大人になって今を振り返る時、スマイル上山の言葉と共に、関わった大人たちの懐かしい顔が無数に浮かぶよう、**かけがえのない地元愛を醸成する学校**でありたいです。

地域と共にある学校づくりを進める中で重視することは、**「子供の参加から参画へ」**という考え方です。低学年のうちは参加して楽しむ、高学年になるにつれて計画から参加していく。

子供が当事者の学校づくりを目指します。